

事業名

デジタル機器を活用した  
防災情報伝達訓練と講習会

事業概要

- デジタルを活用した防災訓練に向け、スマートフォンや防災防犯に役立つアプリの使い方について、集合型とオンラインで講習会を実施。
- 被災時を想定して、デジタル機器を活用した防災情報伝達訓練を実施。
- 本部(自治会館)と避難場所をリモートでつなぎ、各所の避難状況等の報告や本部から指示出しを行った。

実施期間 令和4年7月9日～11月12日  
参加人数 講習会107名、訓練121名  
事業総額 約21万7,600円  
(地域の底力発展事業助成金 20万円)

主な経費(助成対象)

- 物品購入費  
ノートパソコン、大型モニター、モニタースタンド、ウェブカメラ、HDMIケーブル

役割分担

《講習会・講師(1名)》  
自治会副会長の小野澤哲男さんが講師を務める  
《炊き出し・資機材の運搬・会場設営など(約20名)》  
会場設営は未来推進部(青年部)、炊き出しは女性部  
《広報(約10名)》  
訓練の内容を記載した町会機関誌「三和ニュース」を町会地区内約900戸に配布

避難場所となっている「谷戸さんさん児童遊園」。井戸、かまどベンチなどの防災機能を備えている



実施までの主な流れ

- 令和4年
- 7月9日 初回打ち合わせを実施
  - 8月13日 第2回打ち合わせを実施  
日程・購入品などを確認
  - 9月10日 第3回打ち合わせを実施  
チラシ内容・役割分担を確認
  - 9月12日 事業周知(チラシポスティング、ポスター掲示)
  - 10月23日 講習会実施
  - 11月3日 防災情報伝達訓練
  - 11月12日 反省会



自治会館の集会室に設置した65インチ大型モニター

## 事業の実施内容

### ● 講習会

実施場所 三和自治会館  
開催日 令和4年10月23日  
(午後2時～3時30分)

防災情報伝達訓練でデジタル機器を使えるように、事前講習会を開催。スマートフォンを使ったミーティングアプリの使い方などを説明した。

会場には70～80歳代の高齢者層を含め27名が参加。そのほか、パソコン、スマートフォンなどで80名がリモートで参加した。



会場参加の皆さん

### ● 防災情報伝達訓練

実施場所 三和自治会館、避難場所（谷戸さんさん児童遊園、北区立飛島中学校）  
開催日 令和4年11月3日（午後2時～3時30分）

三和自治会館に自治会自主防災本部を設置。避難場所となる飛島中学校と「谷戸さんさん児童遊園」をリモートで結び、自治会役員がスマートフォンを使って、各所の避難状況を本部に伝えるとともに、本部は大型モニターに映し出された映像をもとに各所に指示を送った。

当日は、午前中に会場を設営、接続状況を確認。会場での訓練に21名が参加したほか、炊き出し訓練の様子などをリモートで中継し、約100人がスマートフォンなどで視聴した。



リモートで3カ所を結んで防災情報伝達訓練を実施

## 事業による成果・効果

### デジタル化を通じて世代間交流が進み、自治会活動が活性化

自治会では、デジタルによる活動の活性化を課題としていたが、必要となる機材が高額となるため、デジタル化を進められずにいた。しかし、今回の事業でパソコンや大型モニターなどを導入したことでデジタル化の基盤が整うとともに、これまでスマートフォンを電話としてしか使っていなかった高齢の会員も、SNSアプリのLINEを使えるようになるなど、デジタル化に対する理解と関心が高まった。今回、若手の会員と高齢の会員が協力して事業を進めたことで、世代間交流もこれまで以上に進むなど、自治会活動全体の活性化に結び付いている。

### 事業を振り返って

### 災害時の情報伝達へデジタルの有効性を確認 子育て世代向けの取組も進めたい

「以前はテレビ局にしかできなかった同時中継が、自分たちでできるようになりました」と西ヶ原三和自治会副会長の小野澤哲男さん。「デジタルを活用することで災害時の情報伝達に大変有効であることが分かり、今後の活動のデジタル化への足掛かりとなった」と話す。今後は、購入したモニターなどを定例会に活用するほか、デジタルのノウハウを活かして、小さな子供のいる若い世代に参加してもらえよう取組に力を入れていくことも考えている。



「自治会の皆さんにデジタル化に対する理解が広がりました」と西ヶ原三和自治会副会長の小野澤哲男さん